

他力

— 住職便り —



第31号（令和六年一月）

専徳寺住職 弘中満雄

【サイって何ですか？】

先日、ある方から電話でこんな質問をお受けしました。



「ご法事案内の手紙の中に

意味が分からない言葉があります。『サイがあります』とは何の事でしょうか？」

「サイがある？」

祭か、賽か、何だろうか……。話しているうちに、それは「お齋」の事でした。

「お齋」はご法事の食事を指します。

「何か特別な事かと思いました。」

安堵して電話を切られました。

お齋……齋藤さんの齋の字です。

【齋戒】

「齋」は「つつしむ」の意で、仏教で「身心の行為を慎み清浄にする」を齋戒と言います。そこから「正午から食事をつつしむ行為」↓「仏事の時の食事」になったようです。

毎日の食事づくりは大変です。

けれども法事ではその事を忘れて、読経に、仏法聴聞に集中してもらいたい、大切にしみずめてもらいたい……そんな施主の願いが「お齋」です。

目の前の料理には、多くのいのちと、無数の方々のご苦勞があります。ただ食すのでなく、目に見えない価値に気づく人間性を養い、生かされている事をおかみしめる特別な時間にしたいいものです。

【サイトウ】

お齋は齋藤さんの齋の字です。ところで同じ「さいとう」に「斎藤」があります。この齋は「斎しい」と読みます。

お正信偈には次のようにあります。

凡聖逆謗齊回入

如衆水入海一味

（書き下し文）凡聖・逆謗齊し

く回入すれば、衆水海に入りて

一味なるがごとし。

「凡夫も聖者も、五逆罪を犯したり

仏法を謗る悪人であろうとも、みんな

弥陀の本願の海に入れば、どんな川の水

（清水・濁水）も大海に入ると一つの

塩味となるように、ひとしく救われる。」

齋と斎は違う漢字ですが、「お齋」をいただきながら、つつしんで多くのいのちに感謝しつつ、みなひとしく救うと願われた如来さまの平等なるお心をおかみしめたく思います。

【再開】

感染防止から中止にしていた報恩講の「お齋」を四年ぶりに再開します。



「一汁一菜」的な形になりますが、ご一緒にお聴聞の準備を致しましょう。

二日間ともどうぞお齋についてください。ご門徒みなさんとお聴聞できる事を心から楽しみにしております。（おわり）